

# 農産FAX情報 第4号

令和元年7月1日

発行：ゆとりみらい21推進協議会 指導部会 幕別町忠類地区

6月に入り、5月の高温・干ばつ傾向から一転、20℃前後の冷涼な気温で推移しています。作物の生育は順調に進んでいますが、引き続き病害虫の発生には、注意してください。

## 1 秋まき小麦

今年は、開花期までの生育が平年より早く進んでいます。今後の進捗状況に注意し、生育に合わせた防除を行いましょう。

### ① 赤かび病

6月下旬以降、降雨が増えています。曇天や降雨が多い時は**臨機防除**を計画してください。

防除を行う際は、農薬の**使用時期**と**使用回数**及び**使用倍率**を確認し、同系統薬剤の連用とならないよう注意してください。

### ② アブラムシ類

乳熟期に入るとアブラムシ類の吸汁害リスクが高くなります。**ほ場全体の寄生状況をこまめに確認し**、防除を実施してください。

### ③ ムギキハモグリバエ

ウジ状の幼虫が小麦の葉肉に潜って袋状に加害します。**上位2葉で葉身1/2程度の被害がほ場全体で1割以上見られる場合は**、殺虫剤での防除を実施してください。

## 2 てんさい

### ① ヨトウガ

- ・6月下旬時点で、若齢虫後期（3cm程度）の発生がみられました。老齢幼虫になると殺虫効果が低下するので、食害状況と発生状況を確認し、発見次第早めの防除を行ってください。
- ・ヨトウガは夜行性で夕方から活動し始めます。散布作業は、夕方～夜にかけて行うと効果が高いです。

### ② 根腐病

連作や短期輪作ほ場では、予防的防除に努めてください。薬剤散布時は、株元の地表面までかかるよう、日中は避け、夕方の涼しい時間帯に散布水量を多くして実施しましょう。

### 3 ばれいしょ

#### ① 疫病

6月下旬時点で、疫病初発予測（FLABS）ではすでに十勝全域で危険期に到達しています。今のところ十勝南部地域での発病は未確認ではありますが、ほ場をこまめに観察し、発病前の予防的防除に努めてください。

#### ② 軟腐病

6月下旬で、すでに高温多湿が続いています。早めの予防的防除に努めましょう。また、発病が発見された時は、初期発生のうちに防除を実施してください。

### 4 豆類

#### ① マメアブラムシ防除

クルーザーMAXX等の種子処理剤の効果は、萌芽後1ヶ月程度（6月末頃）で低下します。ほ場をよく観察し発生を確認したら、早めの防除に努めましょう。

#### ② 中耕の実施

初期生育が緩慢な場合は、排水や地温上昇を図るため、天候の良い日に土壌条件に合わせて中耕を実施してください。作業に当たっては、根や作物体を傷つけないよう作業機を調整しましょう。

## < 防除にあたって >

収穫時期が近づいている作物では、  
**農薬の使用時期（収穫前日数）に注意！**

防除回数が増加する時期です。  
**使用履歴の記入は忘れずに！**

防除作業後のタンク洗浄は、  
**農薬が残らないように徹底しましょう！**

※ 不明な点は JA または普及センターへ  
お問い合わせください。